

# 第3次芦別市農業振興計画 中間点検報告書

平成23年 8月

芦別市

## 1 中間点検の目的と方向性

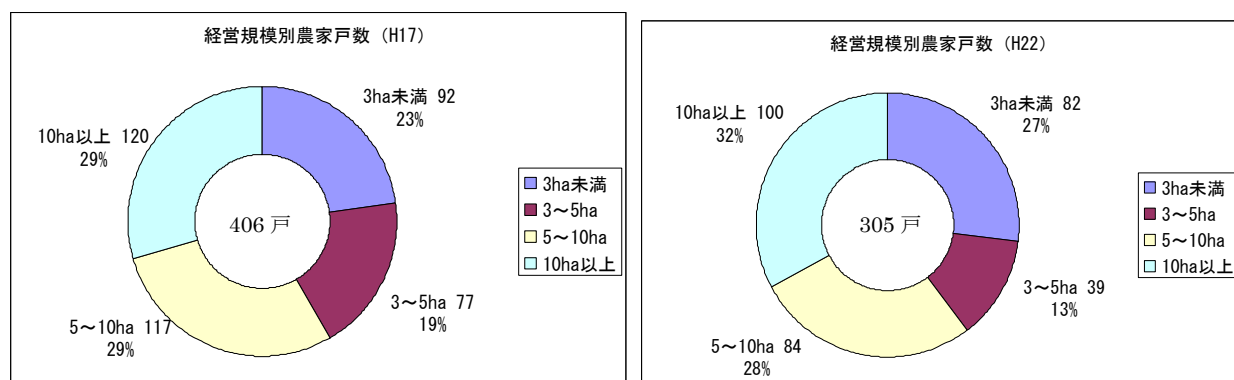
芦別市農業振興計画は、平成11年に制定された「食料・農業・農村基本法」第8条に基づく地方公共団体の責務、及び「芦別市農業振興条例」第3条に基づく本市農業振興施策の基本となる計画として策定された計画です。

今回の中間点検は、平成18年度から27年度までの10年間計画における折り返し地点での点検といった位置づけとなっています。

したがって総合的な改定を行うものではなく、「第3次芦別市農業振興計画」に掲げる4つの基本方針を柱として、前期5カ年の進捗状況や、戸別所得補償制度の本格実施等の国の農業政策や担い手の不足、産地としての機能維持といった社会情勢や直近の課題を反映して、後期5カ年における計画の実効性の向上を図るために行います。

## 2 芦別農業の現状（計画策定時との比較）

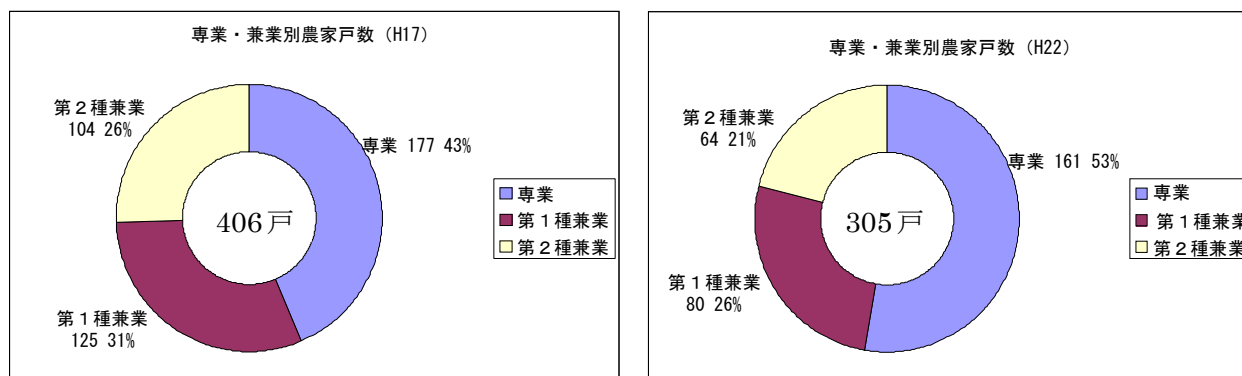
### (1) 経営規模別農家戸数



(資料：農林業センサス)

5年前と比べて、10ha以上の経営規模の占める割合が27%から33%に増加しており、担い手に対する種々の施策により農地の利用集積が進みましたが、3~5haといった小規模販売農家の占める割合は対5年前比約50%に激減しています。

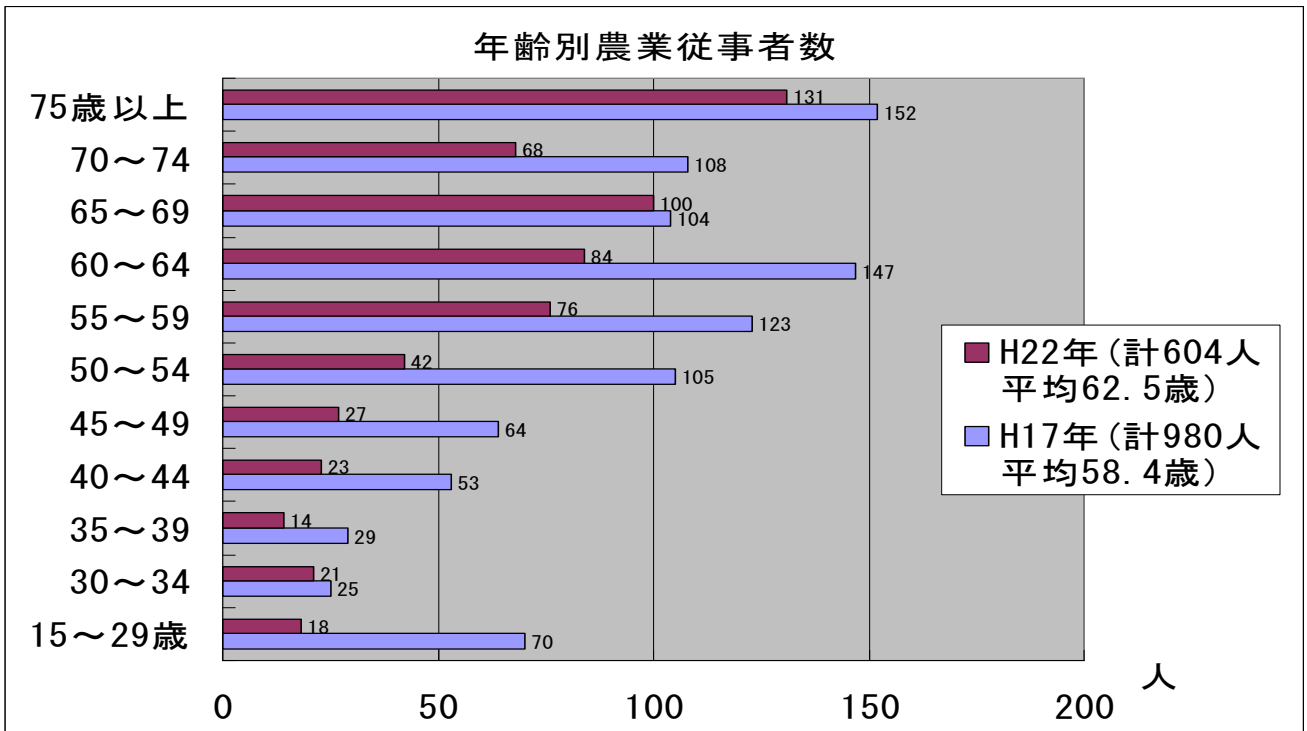
### (2) 専業・兼業別農家戸数



(資料：農林業センサス)

5年前と比べて、専業、第1種兼業を中心とした主業農家のしめる割合が74%から79%に増加しており、特に専業農家の占める割合が53%と過半を占めています。これまで、中小規模の兼業農家の占める割合が高いのが芦別農業の特徴でしたが、社会情勢の変化に伴い、その構造が変化してきています。

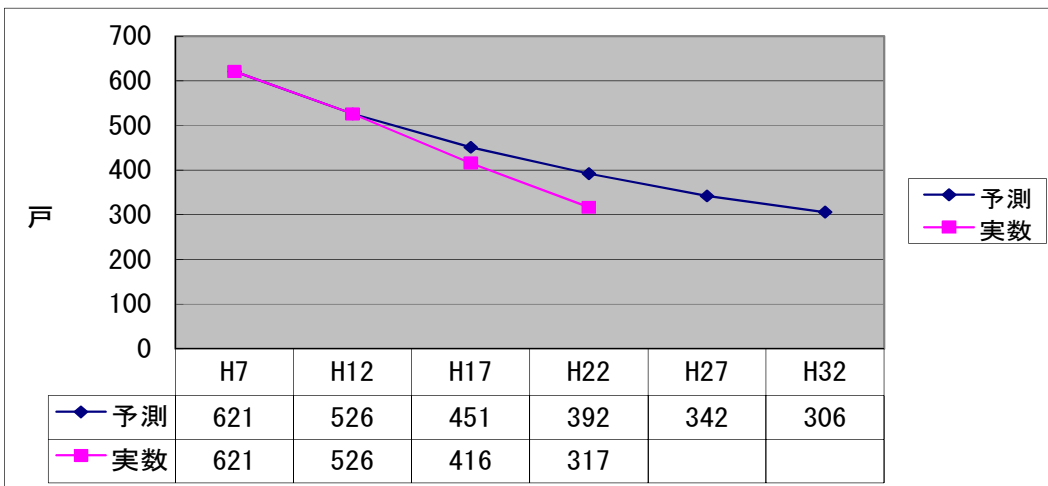
(3) 年齢別農業従事者数



(資料：農林業センサス)

5年前と比較して、農業に従事する方の人数が約62%に減少していることに加えて、その平均年齢が4.1歳増加しており、65歳以上の占める割合である高齢化率を見ても約37%から50%に増加していることから、農村地域における人口減と高齢化の進行がうかがえ、営農活動に及ぼす影響はもとより、集落機能の維持も懸念されます。

(4) 農家戸数減少将来動向予測



(資料：独立行政法人北海道農業研究センター)

この表は、平成15年に農林水産省所管の研究機関が従来の農林業センサスの数値から予測した芦別市における、農家戸数（自給的農家と販売農家の合計）の減少動向の予測と平成22年までの実数を表したものです。平成17年度の予測減少率14.3%に対して実数は減少率20.9%、平成22年に至っては予測減少率13.1%に対して実数は減少率37.0%と、研究機関の予想を上回る速さで農家戸数の減少が進んでおり、今後、TPPへの参画、更なる農産物価格の低迷、生産資材コストの高騰などがあると、その減少速度はまた更に進むことが懸念されます。

(5) 主要農産物の生産動向

	H17			H22			粗生産額の推移
	作付面積 (ha) 飼養頭羽 数(頭、千羽)	生産量 (t、千本)	粗生産額 (千円)	作付面積 (ha) 飼養頭羽数 (頭、千羽)	生産量 (t、千本)	粗生産額 (千円)	
水稻	1,555	8,240	874,915	1,630	6,050	1,008,333	↗
小麦	185	483	44,409	164	349	10,930	↘
雑穀豆類	256	232	40,000	200	70	26,275	↘
馬鈴しょ	64	2,100	133,000	50	1,472	144,192	↗
露地野菜	142	2,390	584,000	85	1,530	148,750	↘
（百合根）	6	64	32,755	3	18	13,984	↘
（メロン）	16	423	142,559	11	280	89,571	↘
果樹	5	25	30,000	7	25	30,000	→
花き	16	2,864	213,415	14	2,745	184,382	↘
（カスミソウ）	4	1,464	97,793	5	1,673	122,985	↗
飼料作物	308	10,200	-	304	-	-	-
肉牛	460	160	140,000	429	276	205,559	↗
乳牛	580	2,550	172,020	423	2,161	156,070	↘
採卵用鶏	150	2,400	410,000	143	2,580	429,137	↗
その他畜産物	-	-	10,000	-	-	-	-
合計	-	-	2,651,759	-	-	2,343,628	↘

資料：たきかわ農協芦別支店、市農林課資料

農産物の生産、販売状況については、平成17年産が気候的にもまずまずの年で平年並みの収量、品質等でした。平成22年産については、高温多湿傾向で病害、水害のあった年であったことから、単純に比較はできませんが、水稻については、良食味米産地として着実に評価を重ね、減収年であったにもかかわらず粗生産額を増加させました。また、畑作地帯の基幹作物としての馬鈴しょや、振興作物の代表である花きのカスミソウなど、厳しい経済情勢や生産条件でしたが、粗生産額を増加させています。

### 3 農業振興計画における工程表の中間点検

#### (1) 芦別産品をつくる体制を強める

##### ア 農地の保全、活用

取り組み	内容	それぞれの役割				前期実施期間（年度）					
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23 以降
①農用地の流動化の促進	担い手への集積	支援	実施		実施	→					
	集落や地域における将来の農地の利用のあり方について検討	支援	実施	支援	支援	→					
②基盤整備の推進	生産基盤の整備	支援	実施	支援	支援	→					
	生産基盤の維持管理		実施	支援	支援	→					
③農村景観の向上	農業資材や廃タイヤなどの撤去	指導	実施	支援		→					

主な取り組みの状況と評価及び課題解決の方針	評価	「進展」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農地保有合理化事業の効果的な実施。（L 資金無利子施策に合わせた前倒し買受け等）</li> <li>・ 中山間事業等を活用した基盤整備事業の実施と農村景観の向上への取り組みを実施。</li> <li>・ 農地利用集積円滑化団体の設立と農地利用集積事業の実施。</li> </ul> <p>○担い手を中心とした地域の中核となる農業者への農地利用集積の継続。</p> <p>○中山間事業を活用した農業生産基盤の整備と農村景観の向上対策の継続。</p>		

取り組み	内容	それぞれの役割				後期実施期間（年度）				
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27
①農用地の流動化の促進	担い手への集積	支援	実施		実施	→				
	集落や地域における将来の農地の利用のあり方について検討	支援	実施	支援	支援	→				
②基盤整備の推進	生産基盤の整備	支援	実施	支援	支援	→				
	生産基盤の維持管理		実施	支援	支援	→				
③農村景観の向上	農業資材や廃タイヤなどの撤去	指導	実施	支援		→				

##### 取り組みのポイント

- ・ 農地利用集積の受け皿となる担い手自体の高齢化。
- ・ 後継者対策との関連を整理して、支援策へ反映。
- ・ 今後も国の政策の動向を見極めながら、利用可能で有利な制度を活用して施策の推進を図る。

## イ 経営の安定、強化

取り組み	内容	それぞれの役割				前期実施期間（年度）					
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23 以降
①経営改善に関する相談、指導の充実	経営に関する相談や情報の提供	支援		実施	支援	→					
	収益性や労働力を作物別に分析	支援		実施	支援	→					
②中長期的な経営計画の策定指導	中長期的な経営計画の策定(所得目標や営農目標の設定)	支援	実施	支援	支援	→ 重点的に支援					
	経営計画を管理するにあたっての相談、指導	支援		実施	支援	→ 重点的に支援					

主な取り組みの状況と評価及び課題解決の方針	評価	「要検討」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手育成総合支援協議会を設立し、担い手確保の取り組みを支援。</li> <li>・「支援センターだより」の発行による啓発活動。</li> <li>・認定農業者自身による経営改善計画の作成に向けた支援。</li> <li>・国の認定農業者中心の政策から主業農業者中心の政策への転換。</li> </ul> <p>○担い手育成総合支援協議会事業の検討。</p> <p>○支援センターの相談機能維持と効果的な情報発信の検討。</p> <p>○TPP への参画問題等、中長期的な計画策定を困難にする社会情勢。</p>		

取り組み	内容	それぞれの役割				後期実施期間（年度）				
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27
①経営改善に関する相談、指導の充実	経営に関する相談や情報の提供	実施		実施	支援	→				
	経営改善への取り組みに関する相談	支援		実施	支援	→				
②中長期的な経営計画の策定指導	中長期的な経営計画の策定(所得目標や営農目標の設定)	支援	実施	支援	支援	→				
	経営計画を管理するにあたっての相談、指導	支援		実施	支援	→				

### 取り組みのポイント

- ・ 計画的な設備投資に対して、市の営農改善事業資金を利用しやすくする。
- ・ 農業経営改善支援センターを廃止して担い手育成総合支援協議会に機能集約。
- ・ 今後も国の政策の動向を見極めながら、利用可能で有利な制度を活用して施策の推進を図る。

## ウ 営農体系に沿った生産体制の強化

取り組み	内容	それぞれの役割				実施期間（年度）					
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23 以降
①作業受委託の推進	農作業受委託の推進	支援	実施	支援	指導	→					→ 運用
	複合経営の水稲部門の作業受委託の推進	支援	実施	支援	指導	→					→ 運用
	機械・施設の共同利用	支援	実施	支援	指導	→					
	受委託組織やオペレーターの育成	支援	実施	支援	指導	→					
②集落営農の推進	法人化による営農継続に向けた合意形成	支援	実施	支援	支援	→					
	法人化後の収支のシミュレーション		実施		支援	→					
	共同乾燥調製に取り組むなど集落ごとの協業化	支援	実施		支援	→					→
③野菜や花きの生産定着、拡大	メロンなどの野菜や花きの生産定着		実施	支援	指導	→					
	市場ニーズに対応した作型の導入		実施	支援	指導	→					
	施設内の環境調節		実施	支援	指導	→					
④小規模生産農家の経営安定	少量多品目野菜の生産取り組み	支援	実施	支援	支援	→					
	「地産地消」や農産物加工の取り組み	支援	実施	支援	支援	→					基本的な取り組み、体制づくり 実践的な取り組み

主な取り組みの状況と評価及び課題解決の方針	評価	「進展」
<ul style="list-style-type: none"> <li>作業受託協議会が設立され、作業受託者による調整が図られる組織が立ち上げられた。その後、市内農作業受委託のシステム構築までは至っていない。</li> <li>集落を主体とした営農形態やその法人化については、まだ実現していないが、今後も地道な啓蒙普及、集落座談会などの取り組みが必要。</li> <li>生産資材費の高騰や、景気の後退等農産物価格の低迷により、所得の確保が困難になってきている。</li> <li>生産者直売組織を通じて、「地産地消」の取り組みが定着しつつある。また、少量多品目野菜に対する取り組みも少しずつ出てきている。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○作業受託協議会体制の再構築、検討。</li> <li>○規模縮小に歯止めをかける産地機能維持を目標として支援措置の再検討</li> <li>○集落における話し合いの促進と、中核となる担い手の育成。</li> <li>○小規模生産農家への少量多品目野菜栽培の導入に向けた普及活動。</li> </ul>		

取り組み	内容	それぞれの役割				後期実施期間（年度）				
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27
①作業受委託の推進	農作業受委託の推進	支援	実施	支援	指導	システムの構築				
	複合経営の水稲部門の作業受委託の推進	支援	実施	支援	指導	システムの検討・構築				
	機械・施設の共同利用	支援	実施	支援	指導					
②集落営農の推進	法人化による営農継続に向けた合意形成	支援	実施	支援	支援					
	法人化後の収支のシミュレーション		実施		支援					
	共同乾燥調製に取り組むなど集落ごとの協業化	支援	実施		支援					
③野菜や花きの生産定着、拡大	メロンなどの野菜や花きの産地機能維持	支援	実施	実施	指導					
	市場ニーズに対応した作型の導入		実施	支援	指導					
	施設内の環境調節		実施	支援	指導					
④小規模生産農家の経営安定	少量多品目野菜の生産取り組み	支援	実施	支援	支援					
	「地産地消」や農産物加工の取り組み	支援	実施	支援	支援	基本的な取り組み、体制づくり				

取り組みのポイント

- ・ 農作業受託協議会のあり方について検討を行い、今後の協議会活動の再構築に向けた協議が必要。
- ・ 集落における営農活動の中核となる担い手のひとつとして法人化を選択肢として推進する。
- ・ 花き栽培における夏場の高温対策等の推進。
- ・ 少量多品目野菜の生産拡大に向けた市施策等の周知。

エ 労働力の確保

取り組み	内容	それぞれの役割				前期実施期間（年度）					
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23 以降
①労働力に関する調査の実施	労働力についての調査などで労働力に関するニーズ把握	支援	協力	実施	指導	●					
②労働力の確保に向けた体制づくり	一時的な労働力を確保するための体制（組織）づくり	実施	実施	実施	実施	→ 検討	→	→	→	→	→
	市内の既存機関や団体との連携による労働力の確保や農業分野への参加促進	実施	協力	支援	支援	→	→	→	→	→	→
③新たな就農者の確保	新規学卒者や U ターン、新規参入者などを対象とした支援体制の充実	実施	協力	支援	支援	→ 制度の見直し	→	→	→	→	→

主な取り組みの状況と評価及び課題解決の方針	評価	「要検討」
<ul style="list-style-type: none"> <li>労働力に関する調査として、市内建設業者との連携について意見交換を実施。農業参入マニュアルの作成と配布。</li> <li>労働力を確保するための体制づくりについては、関係機関との統一した認識に至っていない。</li> <li>新たな就農者の確保については、U ターン就農者が僅かではあるが着実に確保されてきており、今後どのように育成、支援していくかが課題。</li> </ul> <p>○労働力について、雇用労働力等の確保に向けた対策の協議検討。</p> <p>○U ターン後継者に対する研修支援措置の検討。支援施策に係る後継者との意見交換の実施。</p>		

取り組み	内容	それぞれの役割				後期実施期間（年度）				
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27
①労働力の確保に向けた体制づくり	一時的な労働力を確保するための体制（組織）づくり	実施	実施	実施	実施	→ 検討	→	→	→	→
	市内の既存機関や団体との連携による労働力の確保や農業分野への参加促進	実施	協力	支援	支援	→	→	→	→	→
②新たな就農者の確保	新規学卒者や U ターン、新規参入者などを対象とした支援体制の充実	実施	協力	支援	支援	→ 制度の見直し	→	→	→	→

取り組みのポイント

- ・ U ターン農家子弟の育成、確保対策の検討。
- ・ 既存のシステムを活用して、労働力確保のための体系が組めるのか検討。

(2) 芦別農業を支える製品をつくる

ア 農作物の生産振興

取り組み	内容	それぞれの役割				実施期間（年度）					
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23 以降
①稲作	新たな品種の導入		実施	支援	指導	→					
	栽培管理技術の向上		実施	支援	指導	→					
	芦別産米の PR	支援	実施	実施	実施	→					
②南瓜	品質の向上		実施	支援	指導	→					
	収量の確保		実施	支援	指導	→					
	出荷時期の調整		実施	支援	指導	→					
③馬鈴しょ	収量の確保		実施	支援	指導	→					
	前進栽培の推進		実施	支援	指導	→					
	「YES！ Clean 表示制度」に基づいた栽培の推進		実施	支援	指導	→					
	品種の多様化		実施	支援	指導	→					
	品種の多様化にともなった種子の生産		実施	支援	指導	→					
④食用百合	品質の向上		実施	支援	指導	→					
	技術や生産意欲の向上		実施	支援	指導	→					
⑤メロン	作付面積の維持		実施	支援	指導	→					
	ギフト販売に対応した作型の拡大		実施	支援	指導	→					
⑥花き	生産の拡大		実施	支援	指導	→					
	予冷库や選花場などの環境の充実		実施	支援		→					

主な取り組みの状況と評価及び課題解決の方針	評価	「要検討」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ TPP への参画如何によっては、非常に大きな影響を受ける。（米、南瓜、馬鈴しょ）</li> <li>・ 付加価値、差別化に向けた取り組み。</li> <li>・ 花き生産組合内に部会を作り活性化。</li> <li>・ 生産組合員の高齢化と戸数減少。</li> <li>・ 市内米穀店における芦別産米の取り扱いの定着。</li> <li>○産地としての機能をいかに維持するか、生産施設に対する支援策の見直し。</li> <li>○市農林課と生産組合との定期的な意見交換の場を設ける。</li> </ul>		

取り組み	内容	それぞれの役割				後期実施期間（年度）				
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27
①稲作	新たな品種の導入		実施	支援	指導	→				
	栽培管理技術の向上		実施	支援	指導	→				
	芦別産米のPR	支援	実施	実施	実施	→				
②南瓜	品質の向上		実施	支援	指導	→				
	収量の確保		実施	支援	指導	→				
	出荷時期の調整		実施	支援	指導	→				
③馬鈴しょ	収量の確保		実施	支援	指導	→				
	前進栽培の推進		実施	支援	指導	→				
	「YES！Clean 表示制度」取組の検討		実施	支援	指導	→				
	栽培面積の確保		実施	支援	指導	→				
	品種の多様化にともなった種子の生産		実施	支援	指導	→				
④食用百合	品質の向上		実施	支援	指導	→				
	生産体制の維持		実施	支援	指導	→				
⑤メロン	作付面積の維持		実施	支援	指導	→				
	ギフト販売に対応した作型の拡大		実施	支援	指導	→				
⑥花き	生産の拡大		実施	支援	指導	→				
	生産環境への対応		実施	支援	指導	→				

☆ キーワード

**振興作物とは・・・**

第2次芦別市農業振興計画（H8～17）において、当時、水稻と高収益作物との複合経営を推進して、農業所得の向上を図ることと、従来から色々な作物が栽培可能で取り扱い作物が多く、ロットを確保するため集約化が必要との観点から、水稻以外の作物として、南瓜、馬鈴しょ、食用百合、花百合球根、メロン、キャベツ、インゲン、花きの8品目が選定され、助成対象とされました。その後、第3次農業振興計画策定時（H17年度）にも受け継がれ、南瓜、馬鈴しょ、食用百合、メロン、花きの5品目に絞って助成対象とすることとなり、現在に至っています。

イ 酪農・畜産の振興

取り組み	内容	それぞれの役割				実施期間（年度）					
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23 以降
①乳牛	施設や機械の共同利用等による経営安定		実施	支援	指導	→					
	家畜糞尿の適正処理、有機肥料としての還元	支援	実施	支援	指導	→					
②肉用牛	施設や機械の共同利用等による経営安定		実施	支援	指導	→					
	家畜糞尿の適正処理、有機肥料としての還元	支援	実施	支援	指導	→					
③養鶏	鶏舎や選別・包装場所等の衛生管理の徹底		実施		指導	→					



主な取り組みの状況と評価及び課題解決の方針	評価	「維持」		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で良質な畜産物の供給に努め、また、資源循環型農業に向けた取り組みを実施。</li> <li>○酪農ヘルパー制度の有効活用による組織体制の維持。</li> <li>○家畜防疫体制の維持。</li> <li>○施設機械の共同利用等の可能性を検討。</li> <li>○後期工程表については、前期工程表と同様。</li> </ul>				

取り組みのポイント

- ・生産組合との意見交換の継続を通じて現状の課題把握に努め、市の農業施策に反映させる。
- ・「YES! Clean 表示制度」への取組の実効性も含めて再検討を行うとともに、エコファーマーへの取組についても再検討を行う。
- ・現有施設（百合根鱗片繁殖施設）の有効活用に向けて関係者間の協議を進める。
- ・畜産についても、基本的には前期計画における取組を継続することとする。

### (3) 芦別産品のPRと付加価値アップを進める

#### ア 芦別産品の流通・販路の拡大

取り組み	内容	それぞれの役割				前期実施期間（年度）					
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23 以降
①マーケティングの推進	市場調査やマーケティングの場となる機会の拡大	支援	実施	支援	指導	→					
②グループ農業の活動推進	生産者グループによる生産・出荷体制の確立	支援	実施	支援	指導	→					
③芦別産品の周知・PRの推進	各種イベントやホームページなど、さまざまな場や機会を通じた周知、PR	支援	実施	支援		→					
	「芦別村民制度」などの通信販売体制の充実	実施	支援	支援		→					

主な取り組みの状況と評価及び課題解決の方針	評価	「維持」
<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の生産者グループによる活動のみで、グループや生産量の増加にはつながっていない。</li> <li>農業まつり等のイベントを通じた芦別産農産物の周知、PR活動の実施。</li> <li>各生産組合による府県市場視察の実施。</li> <li>○グループ農業振興策の検討、意見交換。</li> <li>○府県市場視察の継続実施による市場動向の把握。</li> <li>○芦別産農産物としての付加価値、差別化の推進。</li> </ul>		

取り組み	内容	それぞれの役割				後期実施期間（年度）				
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27
①マーケティングの推進	市場調査やマーケティングの場となる機会の拡大	支援	実施	支援	指導	→				
②グループ農業の活動推進	生産者グループによる生産・出荷体制の確立	支援	実施	支援	指導	→				
③芦別産品の周知・PRの推進	各種イベントやホームページなど、さまざまな場や機会を通じた周知、PR	支援	実施	支援		→				
	「芦別村民制度」などの通信販売体制の充実	実施	支援	支援		→				

#### 取り組みのポイント

- これまでの取組を継続しつつ、少量多品目野菜の栽培とグループ農業の育成に努める。

## イ 芦別製品の付加価値の向上

取り組み	内容	それぞれの役割				前期実施期間（年度）					
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23 以降
①「安全・安心な芦別産品づくり」の推進	北のクリーン農産物表示制度（YES！Clean 表示制度）への取り組み継続とエコファーマー制度への取り組み	支援	実施	支援	指導	→					
	栽培履歴の普及		実施	支援	指導	→					
②農産物加工の研究、開発	芦別産品を使った加工品の研究・開発	支援	実施	協力	指導	→					
	加工業者との連携による商品化に向けた取り組み	支援	実施	協力	指導	→					
③芦別ブランド、販売戦略の確立	芦別ならではのブランドづくり、販売戦略の確立	支援	実施	協力	指導	検討	→				

主な取り組みの状況と評価及び課題解決の方針	評価	「要検討」
<ul style="list-style-type: none"> <li>栽培履歴が普及、定着し米トレーサビリティ法が施行された。</li> <li>H20～異業種団体・企業の連携により、道の駅に直売所を建設。（地産地消の中心となる施設として位置づけられてきた。）</li> <li>H21～農商工連携に向けた意見交換会を開始。（進行中）今後の組織づくりが課題。</li> </ul> <p>○農産物加工施設の設置に向けた方向性の検討。 ○農商工連携に向けた取り組みの継続。</p>		

取り組み	内容	それぞれの役割				後期実施期間（年度）				
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27
①「安全・安心な芦別産品づくり」の推進	北のクリーン農産物表示制度（YES！Clean 表示制度）、エコファーマー制度への取り組みへの再検討及び栽培履歴記帳	支援	実施	支援	指導	→				
②農産物加工の研究、開発	芦別産品を使った加工品の研究・開発	支援	実施	協力	指導	→				
	加工業者との連携による商品化に向けた取り組み	支援	実施	協力	指導	→				
③芦別ブランド、販売戦略の確立	芦別ならではのブランドづくり、販売戦略の確立	支援	実施	協力	指導	→				

継続実施

取り組みのポイント

- 農商工連携に向けたサポート体制の構築。
- 6次化を見据えた農産物加工、ブランド戦略等の検討。

(4) 「芦別農業」の理解を広め、連携を深める

ア 「地産地消」(「産消協働」)の推進

取り組み	内容	それぞれの役割				前期実施期間(年度)					
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H18	H19	H20	H21	H22	H23 以降
①市内で購入できる 機会の拡大	市内のスーパーや商店での芦別製品の販売促進および直売活動の推進	支援	実施	支援	支援	→ モデル事業					
②教育・福祉機関等 での消費の拡大	学校の給食や病院の食事などで芦別製品の利用促進、メニューの開発	支援	実施	支援	支援	→					
③定期的な販売機会 の拡大	市内での定期的な「市」の開催	支援	実施	支援	支援	→					
	芦別産品を普及するイベントの開催	実施	支援	実施	支援	→					

主な取り組みの状況と評価及び課題解決の方針	評価	「進展」
<ul style="list-style-type: none"> <li>道の駅における生産者直売店の常設。</li> <li>学校給食における芦別産農産物使用の定着。</li> <li>農業まつり等イベントを通じて、芦別産農産物の市内における販売機会の拡大。</li> </ul> <p>○道の駅における生産者直売店等を含めた地元農産物の販売機会の拡大。 ○イベントを通じて地元での芦別産農産物の消費拡大に向けたPR活動。</p>		

取り組み	内容	それぞれの役割				後期実施期間(年度)				
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H23	H24	H25	H26	H27
①市内で購入できる 機会の拡大	市内のスーパーや商店での芦別製品の販売促進および直売活動の推進	支援	実施	支援	支援	→				
②教育・福祉機関等 での消費の拡大	学校の給食や病院の食事などで芦別製品の利用促進、メニューの開発	支援	実施	支援	支援	→				
③定期的な販売機会 の拡大	市内での定期的な「市」の開催	支援	実施	支援	支援	→				
	芦別産品を普及するイベントの開催	実施	支援	実施	支援	→				

取り組みのポイント

- 基本的にはこれまでの取組を継続することとし、「地産地消」に向け関係機関・団体と一体となって推進する。

## イ 「食育」の推進

取り組み	内容	それぞれの役割				前期実施期間（年度）					
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23 以降
①食育を推進する体制づくり	庁内各部署や関係機関の連携や情報共有	実施	支援	支援	支援	→					
②食育を推進する場の拡大	教育分野や生涯学習の場などを通じ芦別産品を味わい、学ぶ場の拡大	実施	実施	支援	支援	→					
	生産者自身が芦別産品の特性や関連知識などについて習得	支援	実施	支援	支援	→					
③スローフード運動の推進	スローフードの考え方の普及や運動の推進	実施	実施	支援	支援	→					



主な取り組みの状況と評価及び課題解決の方針	評価	「進展」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・芦別市食育推進計画を策定し、市の庁内各部署や関係機関と連携し、推進する体制づくりを行っている。</li> <li>・生産者グループにより、芦別の農産物を食材として、市内の消費者に対して味わい、学ぶ場を提供している。</li> <li>・中山間事業を活用して市内小学校での農作物栽培体験学習の実施。JA 青年部（上芦小）水稲栽培体験学習指導とサポート継続実施。</li> </ul> <p>○食育推進計画に基づき、引き続き市内児童を中心に地元農業への理解を広める。</p> <p>○生産者グループによる消費者に対する情報発信への支援。</p>		



取り組み	内容	それぞれの役割				後期実施期間（年度）				
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27
①食育を推進する体制づくり	庁内各部署や関係機関の連携や情報共有	実施	支援	支援	支援	→				
②食育を推進する場の拡大	教育分野や生涯学習の場などを通じ芦別産品を味わい、学ぶ場の拡大	実施	実施	支援	支援	→				
	生産者自身が芦別産品の特性や関連知識などについて習得	支援	実施	支援	支援	→				
③スローフード運動の推進	スローフードの考え方の普及や運動の推進	実施	実施	支援	支援	→				

### 取り組みのポイント

- ・ 基本的にはこれまでの取組を継続することとし、食育推進計画に基づく農林課としての取組はもとより、農業関係者に求められる取組についても理解と協力を求める。

## ウ 他分野との連携によるビジネスチャンスの拡大

取り組み	内容	それぞれの役割				前期実施期間（年度）					
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23 以降
①農業観光の推進	グリーンツーリズムや農作業体験などの企画	支援	実施	支援	支援	—————▶					
②アグリビジネスの拡大促進	アグリビジネス発展への可能性を探る	支援	実施		指導	—————▶					



主な取り組みの状況と評価及び課題解決の方針	評価	「維持」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 修学旅行生の農業体験受入れの実施。</li> <li>○ 修学旅行生受け入れを通じて、芦別農業の PR と理解を広める。</li> <li>○ 農商工連携による起業の可能性を検討。</li> </ul>		



取り組み	内容	それぞれの役割				後期実施期間（年度）				
		① 芦別市	② 生産者	③ 農業団体	④ 関係機関	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27
①農業観光の推進	グリーンツーリズムや農作業体験などの企画	支援	実施	支援	支援	—————▶				
②アグリビジネスの拡大促進	アグリビジネス発展への可能性を探る	支援	実施		指導	—————▶				

### 取り組みのポイント

- ・ 従来からの取組を継続し、引き続き他産業との連携の模索やグリーンツーリズムの推進に向けた課題の検討等を行う。